

私の二つ目の話。

昔々、スルタンの子供と、貧乏人の子供がいた。貧しいうちの子供はスルタンの娘が好きだった。彼は娘が大好きだったが、娘の方は、彼が貧しいので受け入れなかった。

或る日、男の子は娘の部屋に忍び込み、寝台の下に隠れた。そして娘が眠りに来た時に、彼は針を背中に刺した。女の子は母親に言った。

「私の寝床に蚊がいる」。

しかし、それは男の子が寝台の下で娘を針で刺していたのだった。彼らは確かめに来て、針を持った男の子を見つけた。彼らは男の子を朝まで放っておいたが、それから罰を与え始めた。男の子は一日仕置きを受け、それから解放された。

彼はまた娘に会い、言い寄ったが、父親のスルタンが認めなかった。そして毎日、男の子は娘に会い、困らせた。それがスルタンの知るところとなって、スルタンは男の子の父親に言った。

「お前の息子に、そういう振る舞いをやめるように言ってくれ。私の娘が貧乏人と結婚するのは嫌だから」。

男の子はそれを受け入れようとしなかった。彼は相変わらず娘を愛していた。父親のスルタンは配下の者を遣って、今日みたいな金曜日の或る日、男の子を捕らえ、首を刎ねてしまった。彼らが首を刎ねた後、男の子の母親は嘆き苦しみ、どうしようもなかった。子供の首が町のスルタンによって刎ねられてしまったのだから。貧しい母親は思った。私の子供は殺されることはなかっただろう、スルタンの娘が生きているというのに。彼女はスルタンの娘が通りがかるのを見て、身を隠し、彼女の首を刎ねた。二人とも死んでしまった。